

1 中期学校経営方針

(1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標	
<p>○子ども一人一人を大切に、まちや学校の特色を生かした、活力と魅力にあふれる学校づくりを目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや考え、相手のよさを積極的に伝え合い、豊かな人間関係を築くことができる子どもを育てます。 ・学び合う楽しさを実感できる授業づくりを推進し、進んで表現し主体的に学び続けることができる子どもを育てます。 ・基本的な生活習慣を身に付け、心身ともに健康な子どもを育てます。 ・保護者・地域・学校の連携をより密にして、子どもが地域や人との「つながり」を感じとり、まちを大切にすることを育みます。 	

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	取組目標	具体的取組
<p>確かな学力 (学習指導)</p>	<p>言語活動を通して、自分の考えを表現、交流できる学習を充実させる。</p> <p>個に応じた指導・支援を充実させ、児童が自信をもって自分の考えを表現できるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 語彙指導の充実 語彙表やマイ辞書を活用し、児童が自分の考えや思いに合った言葉で表現できるようにする。 ○ 特別支援教育の充実 個々の実態を把握し、個に応じた指導・支援の充実をすすめる。 ○ 学校と家庭・地域との連携 全学年・全学級が家庭学習を習慣化し、定着させる。家庭と連携した内容の授業を展開していく。 「三耕教育」の理念に基づき、礼儀・礼節の心の体得をすすめる。 ○ コミュニケーション能力の向上 思いにそった適切な表現や他者の考え方の受容という視点を持ち、「道徳」の研究を通して改善を図る。
<p>担当</p>	<p>学習指導部</p>	

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

平成28年度 学力

平成27年度 学力

(1) 学力の概要と要因の分析

学力は横浜市の平均値に近い学年が多かった。平成27年度の調査結果と比較しても、学力が向上してきていることが読み取れる。「勉強は好きですか。」という問いに対しては、8割以上の児童が「好き、どちらかといえば好き」と答えており、昨年度よりも伸びが見られた。学習への意欲の高まりが、結果につながったと考えられる。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：「読書が好き」と回答している児童の方が、国語の学力が高い傾向にある。
- 算数科：市平均とほぼ同じであるが、活用問題の正答率がやや低い。
算数への学習意識は横浜市と比べて高い。
- 社会科：全体として市の平均を上回っている。低学年は、生活科の学習意欲が高い。
- 理科：全体として市の平均を上回っている。

(3) 経年変化の状況と要因の分析 (学習・生活意識調査も含めて分析)

平成23年度から28年度過去6年間の経年変化の状況から、学校全体として学力が高まっている状況が見られる。生活意識調査では、自己意識や学校生活への意識が高まっている。昨年度、教科学習と関連付けながら道徳の時間の充実を図ってきたことが、自己肯定感の高まりや活動への充実感につながったと考えられる。

3 平成29年度 学年・教科等としての具体的取組

1 学年

- 学校図書館や本に親しみ、様々な言語活動を通して自分の思いを表す。
- 個に応じた指導や視覚的な教材を工夫し、体験的な活動を積極的に取り入れる。
- 家庭とのつながりを大切にした学習活動を取り入れる。栽培活動を通じて地域の方とかかわりをもつ。
- 自分の思いを伝えること、相手の思いを受け取ることができるように、話し方、聞き方の指導を日常的に行う。

2 学年

- 国語科では、学校図書館を積極的に活用し、言語活動の充実を図り語彙力を高める。
- 学習の見通しや教材などを視覚化し、誰もが安心して学習に取り組めるようにする。
- まちにある施設や公園、人々とかかわりを通して、まちに親しみや愛着がもてるようにする。
- 自分の思いや考えを友達と交流し、互いの良さや違いを認め合える場面をつくる。

3 学年

- 辞書の活用や作文、日記を書くことを通じて、実生活に基づいた語彙を広げる。
- 既習の学習やこれまでの体験が積み重なっていくように指導する。
- 総合的な学習の時間、社会科等でのまち探検をしながら、まちに対する理解を深める。
- 自分の思いを適切な言葉で伝え、相手の気持ちを受け止めながら交流できるように学習を進める。

4 学年

- 国語科以外でも、説明する文章、記録、報告する文章を書くなど、表現活動を大切にする。
- 自分の考えをもち、目的に向かって互いの考えの共通点や相違点を考えながら話し合う。
- 学年だよりや学級通信を通じて、児童の活動内容や活動の様子を伝えていく。
- 自分の思いをもち、適切な言葉で伝え、相手の思いを共感的に聞いたり自分との違いに関心をもって聞いたりできることを大切に交流できるように指導していく。

5 学年

- 自分の考えや思いを表現できるようになるためには、自分の思いを表出したいという意欲を高めることと、さまざまな表現にたくさん触れることが必要である。そこで、社会、理科などでは、子どもが問題をみつけ解決するような学習を展開することで、自分たちの思いが生かされる楽しさを感じ意欲を高めていく。また、よい表現にたくさん触れるために、読書の習慣をつけていきたい。
- 昨年度のチャートを見ると、他学年と比べても学習意欲が低い。それは、子どもたちが学習することの価値や楽しさを感じていなかったり、苦しいことになるとすぐに投げ出してしまったりする傾向が強いからである。学習環境を整える、ノートをとる、話を聞く、投げ出さずに取り組むなど、基本的な学習習慣を身に付けさせることから取り組んでいく。これらは、個に応じた指導を行うようにしていく。
- 家庭学習を習慣化できるように家庭と連絡を密に取るようにする。
- 道徳では、考えたことを話し合ったり、感じたことを伝え合ったりすることで、自分たちの気持ちを他者の意見と比較しながらみつめ、そこから、生まれた思いを伝えあえるような授業展開を工夫していく。

6 学年

- 自分の考えを適切に表現できるようにするため、国語科以外でも辞書を活用したり、算数や理科で学んだ言葉を意図的に用いたりする。
- 個々の実態をつかみ、少人数指導や取り出し学習を活用しながら補充的指導、発展的な指導ができるようにする。
- 懇談会や学年便りを通じて児童の実態を発信する。栽培活動を通じて地域の方とのつながりを密にする。
- 教科との関連を意識して道徳の時間の主題を設定する。互いに思いや考えを出し合う場面をつくる。

個別支援学級

- 個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、話し言葉、書き言葉等、発達段階に応じた適切な言語能力を積極的に活用する場面を設けるようにする。
- 子どもの発達段階に応じて、各学年の取組を参考にし、必要な取組を行うようにすると同時に子どもに応じたわかりやすい情報発信をしたり環境の整備を行ったりする。
- 地域や家庭との活動を積極的に学習に取り入れ、様々な人と関わる機会を増やすと同時に周りの人の子供への理解が深まるようにする。
- 小集団での活動を大切に学習することで子供同士が関わり合う機会を増やしコミュニケーション能